

小学校6年生における中学校生活に対する期待と不安

三宅 幹子

本研究では、小学6年生97名（男子44名、女子53名）を対象に、中学校生活に対する期待と不安について、質問紙による調査と小学校訪問の効果の検討を行った。調査に参加した児童は同一の中学校区にある3つの小学校に在籍する子どもたちで、3つの小学校のうち、1校は中学校に隣接しており、他の2校は中学校から離れた場所にある小規模校であった。分析の観点としては、中学校生活に対する期待と不安に関して、(1)規模や環境の異なる小学校間の差と性差の検討、(2)期待と不安のタイプ分類、(3)中学1年生による小学校訪問の効果の検討をとりあげた。分析の結果、性差およびタイプ分類における男女比率の違いなどが示された。規模や環境の異なる小学校間の差、および小学校訪問の効果については、方法を改善してさらなる検討を重ねていくことが必要であると考えられた。

Keywords：環境移行、適応支援、小学校、中学校

児童期から青年前期にかけての子どもたちにとって、小学校を卒業して中学校へと入学することは、様々な期待や不安を伴う環境移行の一つである。新しく参入した中学校という環境の中で、生徒たちには、友人関係の拡大と再構築、学級担任制から教科担任制への移行、部活動への参加、生徒間での先輩後輩関係の出現、新しい学校の規則や生活スタイルの変化など多くの変化が押し寄せ、新しい環境への適応が否応なしに求められることになる。同時に、小学校高学年頃からは青年期に向けて心身の発達の变化を迎える時期でもあり、こうした変化が重なることについて、児童生徒にとっては「二重の意味で危機的である」（古川・小泉・浅川、1992）との指摘もある。

小学校から中学校への環境移行期についての研究の中で、中学校入学前の児童の期待・不安を扱った研究を概観すると、中学校への移行期の女子は男子よりも対人関係や学習での不安得点が高いことや（例えば、小泉、1992；小泉、1995；草野・上地、2002；南・浅川・秋光・西村、2011；和田・小倉、2016）、中学校入学に対する期待や不安が中学校への適応過程と関連していること（小泉、1995）、中学校入学前の予期不安の水準によって、中学入学後

の適応状態が異なること（南・浅川・福本・古河・松本・古川、2016）などが報告されている。

また、学校規模について着目した草野・上地（2002）は、児童の在籍する小学校をもとに、「大規模校群」、「小規模校群」、「1小1中校群（一つの小学校の児童がそのまま中学校へ進学する）」に分け検討した結果、「小規模校群」は、その他の群に比べて対人関係不安得点が高いこと、「1小1中校群」に比べて学習不安得点が高いことなどの特徴をもっていたと報告している。ただし学校の規模や環境に着目した研究は少なく、今後も研究データの蓄積が求められる状況であるといえよう。

本研究では、地方都市近郊にある1つの中学校区内の小学6年生の児童を対象として、中学校生活に向けての期待と不安を調査しその実態を報告するとともに、小学校から中学校へのスムーズな移行を支えるために行われた、中学1年生による小学校訪問取り組みの効果について検討することを目的とする。

分析の観点としては、中学校生活に対する期待と不安に関して、(1)規模や環境の異なる小学校間の差および性差の検討、(2)期待と不安のタイプ分類、(3)中学1年生による小学校訪問の効果の検討、をとり

あげた。本調査の対象となる児童は、同一の中学校区にある3つの小学校に在籍する子どもたちで、3つの小学校のうち、1校は中学校に隣接しており、他の2校は中学校から離れた場所にある小規模校であった。こうした環境や規模の違いから、児童の中学校に向けての期待や不安の抱き方、および小学校訪問の取り組みの効果に違いが出るものと予測される。

方法

参加者 地方都市近郊のX中学校の校区内にある公立小学校3校の6年生、計97名(男子44名、女子53名)。内訳は、A小学校55名、B小学校26名、C小学校16名。小学校3校のほとんどの児童が、この公立中学校へと進学する状況であった。小学校3校のうち、A校は3校の中では最も児童数が多く(一学年あたり2学級)、中学校と隣接しており、学校行事や校庭での活動の様子なども日常的にうかがい知ることのできる環境にあった。残る2校は、一学年あたり1学級の小規模校で、中学校からは距離が離れた地域にあった。

手続き 調査は、20xx年11月初旬(事前調査)、11月下旬(事後調査)の計2回実施した。2回の調査の間に、X中学校1年生が3つの小学校をそれぞれ手分けして訪問し、各小学校の6年生に向けて、中学校生活について説明するためのプレゼンテーションと児童生徒の懇談会からなる行事(小学校訪問)を実施した。この取り組みは、小学校6年生に中学校生活への見通しを持たせることで中学校進学に先立って感じている不安の緩和や期待の向上を目指して実施されており、各小学校には当該小学校からの進学者が訪問した。

なお、本研究のすべての手続きは、参加した児童に対する倫理的配慮を含め、当該中学校・小学校の指示および承諾のもと実施した。

調査票の構成 調査内容は、「中学校生活に対する期待・不安尺度」(小泉, 1995)の中から「対人

関係・学習での期待」(10項目)、「部活動での期待・不安」(6項目)、「学習での不安」(5項目)、「自由への願望」(4項目)に属する計25項目、および「中学校生活予期不安尺度」(南・浅川・秋光・西村, 2011)の「対人的不安」に属する7項目を使用した。なお、「部活動での期待・不安」は、集計の際に、期待が高いほど高得点となるように不安について尋ねる項目の得点を逆転していることから、本研究の以降の部分では、その意味に沿うように「部活動での期待」と呼ぶこととする。

「中学校生活に対する期待・不安尺度」の評定は「とてもそう思う(4)」から「全然そう思わない(1)」の4段階、「中学校生活予期不安尺度」の評定は「非常にそう思う(4)」から「ぜんぜんそう思わない(1)」までの4段階で求めた。

結果と考察

(1)規模や環境の異なる小学校間の差および性差の検討

全体および学校別、性別にみた、中学校生活に対する期待・不安尺度および中学校生活予期不安尺度の各下位尺度得点の平均と標準偏差をTable 1, Table 2に示す。集計はそれぞれの出典にならって行った。また、本研究データにおける各下位尺度の α 係数は、「対人関係・学習での期待」 $\alpha=.85$ 、「部活動での期待」 $\alpha=.72$ 、「学習での不安」 $\alpha=.72$ 、「自由への願望」 $\alpha=.56$ 、「対人的不安」 $\alpha=.90$ であった。

事前調査の評定値について、小学校間の差、性差を検討するために、分散分析、 t 検定を行った。

小学校間の差については、一要因3水準分散分析の結果、「自由への願望」において小学校の主効果が有意であった($F(2, 81)=6.10, p<.01$)。多重比較(Tukey法)の結果、B校は、C校、A校よりも有意に高いことが示された。また、「部活動での期待」「学習での不安」においては小学校の主効果は有意となる傾向がみられた(順に、 $F(2, 89)=2.54, p<.10$; $F(2, 88)=2.97, p<.10$)。平均値の値をみると、「部活

Table 1 中学校生活に対する期待・不安尺度の平均値と標準偏差

		「対人関係・学習での期待」		「部活動での期待」		「学習での不安」		「自由への願望」	
		事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
小学校	A	3.6 (.78)	3.2 (.57)	3.3 (.48)	3.2 (.49)	2.5 (.63)	2.5 (.68)	2.1 (.46)	2.1 (.53)
	B	3.3 (.81)	3.0 (.57)	3.1 (.53)	3.2 (.58)	2.9 (.65)	2.8 (.67)	2.6 (.75)	2.5 (.70)
	C	3.7 (.78)	3.4 (.57)	3.4 (.57)	3.4 (.62)	2.8 (.87)	2.6 (1.03)	2.2 (.58)	2.3 (.69)
性別	男子	3.5 (.83)	3.1 (.60)	3.3 (.48)	3.3 (.51)	2.5 (.67)	2.5 (.76)	2.0 (.50)	2.1 (.57)
	女子	3.6 (.76)	3.2 (.55)	3.2 (.55)	3.2 (.56)	2.8 (.67)	2.7 (.72)	2.3 (.63)	2.3 (.65)
	全体	3.5 (.79)	3.2 (.58)	3.3 (.52)	3.2 (.53)	2.7 (.70)	2.6 (.75)	2.2 (.60)	2.2 (.62)

注) 評定値の得点可能範囲は1~4。表中の平均値について、人数は、それぞれ次の通りであった。全体:84~97、A校:49~55、B校:20~26、C校:15~16、男子:37~44、女子:47~53。

Table 2 中学校生活予期不安尺度の「対人的不安」の平均値と標準偏差

		事前		事後	
		n	M (SD)	n	M (SD)
小学校	A	51	1.7 (.62)	55	1.7 (.74)
	B	25	2.0 (.78)	26	2.0 (.79)
	C	16	1.7 (.69)	16	1.7 (.75)
性別	男子	43	1.6 (.59)	44	1.6 (.62)
	女子	49	1.9 (.73)	53	1.9 (.83)
	全体	92	1.8 (.67)	97	1.8 (.76)

動での期待」はB校が他校より低め、「学習での不安」では、B校とC校がA校より高めという傾向が読み取れる。

さらに、全体的に平均値の値をみると、A校と小規模校であるB校、C校の差に関して、次のような傾向が示された。すなわち、概してB校においては、期待が低め不安が高めの傾向がよみとれ、不安の高さについては草野・上地(2002)と整合する結果が得られたと解釈できる。しかしC校に関しては、学習への不安がやや高めではあるものの、対人的な不安は高くない。ともに小規模校ではあるが、学校ごとの独自の傾向もあることを示す結果といえよう。

性差については、t検定の結果、「学習での不安」「自由への願望」「対人的不安」において有意で、いずれも女子のほうが高いことが示された(順に、 $t(86)=2.75, p<.01$; $t(82)=2.48, p<.05$; $t(90)=2.39, p<.05$)。不安感に関して男子よりも女子のほうが高いことは、これまでの研究において示されてきたことと整合している(小泉, 1992; 小泉, 1995; 草野・上地, 2002; 南・浅川・秋光・西村, 2011; 和田・小倉, 2016など)。また、「自由への願望」が男子

よりも女子において高いことも、小泉(1995)、草野・上地(2002)などの報告と同様の傾向である。

次に、各下位尺度間の相関係数を、全体および男女別に算出した(Table 3, Table 4)。

結果をみると、「対人関係・学習での期待」と「部活動での期待」の間に正の相関がみられる点、および、「対人関係・学習での期待」と「学習での不安」の間、「部活動での期待」と「学習での不安」の間に負の相関がみられる点は、男女で共通の傾向であった。

男女間で違いがみられた点は、男子においては、「自由への願望」と「対人的不安」の間に正の相関がみられるのに対して、女子では有意な相関はみられなかった。また、女子においては、「部活動での期待」と「自由への願望」「対人的不安」のそれぞれとの間に負の相関がみられるのに対して、男子では有意な相関は示されなかった。同様に、女子においては「学習での不安」と「自由への願望」「対人的不安」の間には正の相関がみられるのに対して、男子では有意な相関は示されていない。

これらのことから、男子に特徴的な傾向として、自由への願望が強いほど対人的な不安が高いことがあげられる。一方、女子に特徴的な傾向として、部活動への期待は、自由への願望や対人的な不安が強いほど低いこと、および、学習への不安が高いほど自由への願望が強く対人的な不安も高いことがあげられる。女子ではより多くの下位尺度間に有意な相関がみられており、様々な要因が複雑に絡み合っているとみられる。こうした性差も考慮に入れて移行期を理解する必要があるだろう。

Table 3 下位尺度間の相関係数

	中学校生活に対する期待・不安尺度			中学校生活予期不安尺度
	「部活動での期待」	「学習での不安」	「自由への願望」	「対人的不安」
「対人関係・学習での期待」	.38**	-.42**	-.07	-.13
「部活動での期待」		-.32**	-.19+	-.45**
「学習での不安」			.38**	.32**
「自由への願望」				.34**

注) N=82~92。 ** $p<.01$, + $p<.10$.

Table 4 性別にみた下位尺度間の相関係数

	中学校生活に対する期待・不安尺度				中学校生活予期不安尺度
	「対人関係・学習での期待」	「部活動での期待」	「学習での不安」	「自由への願望」	「対人的不安」
「対人関係・学習での期待」		.38**	-.50**	.06	-.07
「部活動での期待」	.40**		-.31*	.05	-.10
「学習での不安」	-.44**	-.31*		.15	.24
「自由への願望」	-.16	-.31*	.43**		.43**
「対人的不安」	-.22	-.67**	.28*	.22	

注) 右上: 男子 (n=36~43), 左下: 女子 (n=45~50)。 ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$.

(2)期待と不安のタイプ分類

さらに、中学校に向けての期待と不安の実態を把握するために、期待と不安の抱き方におけるタイプ分けを試みた。具体的には、中学校生活に対する期待・不安尺度の4つの下位尺度と「対人的不安」にもとづくクラスター分析(Ward法)を実施した。

分析の結果、4つのクラスターを抽出した。Table 5にクラスターごとにみた各下位尺度の評定値の平均値、各学校別および性別の人数を示す。

4つのクラスターの特徴をみるために、中学校生活に対する期待・不安尺度の4つの下位尺度と「対人的不安」のそれぞれにおいて、クラスターを要因とする分散分析(一要因4水準)を行った。

その結果、すべての下位尺度においてクラスターの主効果が有意であった(順に、 $F(3, 77)=51.00, p<.01$; $F(3, 77)=21.31, p<.01$; $F(3, 77)=61.37, p<.01$; $F(3, 77)=18.88, p<.01$; $F(3, 77)=7.10, p<.01$)。

クラスターごとにみた各下位尺度の評定値をもとに、各クラスターの特徴を読み取ると次のようになる。

まず1つめのクラスター(CL1)については、「対人的不安」を除くほとんどの下位尺度において比較的高い値をとっている。「部活動での期待」や「対人関係・学習での期待」が高い一方で、「学習での不安」「自由への願望」においても高めである。「対人的不安」を除き、期待と不安の双方を高め持っている群であるといえよう(高期待・高不安群)。このクラスターには20名(24.7%)の児童が属していた。

次に2つめのクラスター(CL2)については、「対人関係・学習での期待」、「部活動での期待」は低く、

「学習での不安」、「自由への願望」、「対人的不安」は高い。全般的に期待が低く、不安が高い群であるといえる(低期待・高不安群)。このクラスターには、19名(23.5%)の児童が属していた。

3つめのクラスター(CL3)については、CL2と対照的に、「対人関係・学習での期待」、「部活動での期待」は高く、「学習での不安」、「自由への願望」、「対人的不安」は低い。全般的に期待が高く、不安が低い群であるといえる(高期待・低不安群)。このクラスターには23名(28.4%)の児童が属していた。

4つめのクラスター(CL4)については、特に高い値をとるものではなく、「対人関係・学習での期待」や「自由への願望」の低さが特徴的である。不安は低いものの、期待もあまり高く抱いてはいない群といえる(低不安・低期待群)。このクラスターには、19名(23.5%)の児童が属していた。

次に、これらのクラスターについて、性別の分布に偏りがあるかを検討するために、クラスター×性別の χ^2 検定を行った。その結果、クラスター間で男女の比率には差がみられ($\chi^2(3)=13.99, p<.01$)、残差分析の結果、CL1(高期待・高不安群)、CL2(低期待・高不安群)は女子の比率が高く、CL3(高期待・低不安群)は男子の比率が高くなっていた($p<.05$)。

(3)中学1年生による小学校訪問の効果の検討

最後に、各小学校における、小学校訪問の前後での変化について検討するために、事前・事後の両調査に参加していた児童を対象にして、各下位尺度得点について調査時期(2)×小学校(3)の二要因分散分析を行った(小学校訪問前後の評定値の平均値は

Table 5 クラスターごとにみた各下位尺度の平均値(SD)、各学校および性別の人数

	CL 1 (n=20)	CL 2 (n=19)	CL 3 (n=23)	CL 4 (n=19)	検定結果 (多重比較)
中学校生活に対する期待・不安尺度					
「対人関係・学習での期待」	3.9(.47)	2.9(.46)	4.4(.41)	2.9(.54)	3>1>2,4
「部活動での期待」	3.5(.33)	2.7(.38)	3.6(.33)	3.2(.47)	3,1>4>2
「学習での不安」	3.1(.35)	3.3(.44)	1.8(.40)	2.7(.42)	2,1>4>3
「自由への願望」	2.4(.53)	2.8(.51)	1.9(.47)	1.7(.32)	2,1>3,4
中学校生活予期不安尺度					
「対人的不安」	1.7(.43)	2.3(.70)	1.5(.50)	1.6(.72)	2>1,4,3
小学校					
A校	10[21.3]	7[14.9]	16[34.0]	14[29.8]	
B校	5[26.3]	9[47.4]	2[10.5]	3[15.8]	
C校	5[33.3]	3[20.0]	5[33.3]	2[13.3]	
性別					
男子	5[13.9] ^L	4[11.1] ^L	15[41.7] ^H	12[33.3]	
女子	15[33.3] ^H	15[33.3] ^H	8[17.8] ^L	7[15.6]	

注) 右端の検定結果の欄は、クラスター(CL)を要因とする分散分析と多重比較(Tukey)の結果、有意な差がみられた部分を示す。[]内の数値は、各学校または性別におけるパーセンテージを示す。H, Lは χ^2 検定の結果を示し、Hは比率が高いことを示し、Lは低いことを示す。

Table 1を参考に)。

その結果、測定の主効果が有意となったのは、「対人関係・学習での期待」と「学習での不安」であり、いずれも、事後調査では事前調査よりも低下していることが示された(順に、 $F(1, 90)=43.18, p<.01$; $F(1, 85)=4.05, p<.05$)。またその他に有意となった効果は、「自由への願望」における小学校の主効果であり($F(2, 79)=5.12, p<.01$)、多重比較の結果、B校はA校よりも高かった。「部活動での期待」と「対人的不安」においては有意な効果はみられなかった。

これらのことより、事前調査の段階で、「対人関係・学習での期待」の評定値が高いことを考え合わせると、小学校訪問で中学校生活について知り中学生と触れ合う経験を通して、小学校児童の学習への不安が和らぐとともに、中学校生活に対する新鮮さが低下したり、中学校生活のイメージがより現実的なものへと変化したのではないかと考えられる。

まとめと今後の課題

本研究では、地方都市近郊にある1つの中学校区内の小学6年生の児童を対象として、中学校生活に向けての期待と不安を調査し、その実態を報告すること、および、中学1年生による小学校訪問の取り組みの効果について検討することを目的としていた。分析の観点としては、中学校生活に対する期待と不安に関して、(1)規模や環境の異なる小学校間の差および性差の検討、(2)期待と不安のタイプ分類、(3)中学1年生による小学校訪問の効果の検討をとりあげた。

(1)規模や環境の異なる小学校間の差および性差の検討

まず、小学校間の差および性差に関しては、性差は先行研究とほぼ同様の結果が得られたが、学校間の差については明確な結果が得られたとは言い難い。すなわち、小規模校であるB校とC校において「学習での不安」がやや高めという点は、草野・上地(2002)の結果と通じる部分であるが、B校とC校の間でも傾向の異なる部分があり、単に学校規模や立地によりまとめられるものではなく、学校独自の傾向を反映する結果である可能性にも留意しておく必要が考えられた。

また、本研究では学校規模や中学校との間の距離などの違いに着目して、A校と、B校・C校の間に差が出るものと予測し研究を行ったが、アンカーポイント(小泉, 2002)としての兄姉の存在(小泉, 1992; 小泉, 1995)など、児童の個別の要因について考慮していなかったため、明確な結果が得られなかった可能性もある。アンカーポイントとは、個人

と環境との相互作用を促進する機能を持つ拠点のことをさし、具体的には、児童の兄姉が中学校生活の情報源となり、学校適応に促進的に機能することが指摘されている。

(2)期待と不安のタイプ分類

また、期待と不安のタイプ分類では、「対人的不安」を除き、期待と不安の双方を高め持つCL1(高期待・高不安群)、全般的に期待が低く、不安が高いCL2(低期待・高不安群)、全般的に期待が高く、不安が低いCL3(高期待・低不安群)、安は低いものの期待もあまり抱いてはいないCL4(低不安・低期待群)の4つに分類された。これらのクラスターは男女比率に違いがあり、CL1(高期待・高不安群)、CL2(低期待・高不安群)は女子の比率が高く、CL3(高期待・低不安群)は男子の比率が高くなっていた。移行期の適応支援を考える際に、こうした実態をもとに方法を考案することで、より効果的な取り組みにつながると考えられる。

(3)中学1年生による小学校訪問の効果の検討

そして、中学1年生による小学校訪問の効果の検討については、期待や不安の高さを指標に小学校訪問の影響について検討を試みた結果、「対人関係・学習での期待」と「学習での不安」が低下する結果となった。不安の低減という点でプラスの結果が得られたが、新鮮さが薄らぐこともあり期待を高めることには奏功しなかった。また、数値の推移からは変化を読み取ることはできなかった部分もあったが、児童が抱く期待や不安の内容は、中学生のプレゼンテーションを視聴したり、中学生との懇談を経験する中でさまざまに変化していることが推測される。今回の小学校訪問の取り組みの効果を評価するには、そうした内容面の変化も捉える方法が必要であったと考えられる。加えて、本研究では、統制群をおいての比較検討を行うことができなかったが、取り組みの効果の評価のためにはこの点を改善する必要もある。

最後に、児童生徒の適応促進を図るための基礎研究として、南・浅川・福本・古河・松本・古川(2016)は、中学校入学前の予期不安の水準が異なる生徒について中学校入学後の適応感を検討し、必ずしも不安の低いことが適応的であり、不安の高いことが不適応的であるという結論は導かれないことを主張し、不安の高さを問題とするよりも、生徒の感じている不安への対処の重要性を指摘している。児童生徒の環境移行期の適応支援を考えるうえで、不安の高さを問題視するだけでなく、不安を感じたときを指導・支援の契機ととらえタイムリーに対処できる状況・体制があるかを合わせて確認しておく必要が

あると考えられる。

引用文献

古川 雅文・小泉 令三・浅川 潔司 (1992). 小・中・高等学校を通じた移行 山本多喜司・S.ワップナー (編著) 人生移行の発達心理学 北大路書房, pp.152-178.
 小泉 令三 (1992). 中学校入学にあたっての期待と不安 日本教育心理学会第34総会発表論文集, 191.
 小泉 令三 (1995). 中学校入学時の子どもの期待・不安と適応 教育心理学研究, 43, 58-67.
 小泉 令三 (2002). 学校・家庭・地域社会連携のための教育心理学的アプローチアンカーポイントとしての学校の位置づけ 教育心理学研究,
 草野 剛・上地安昭 (2002). 小学校から中学校への移行期における児童・生徒の期待と不安に関する

調査研究 生徒指導研究, 14, 49-63.
 南 雅則・浅川 潔司・秋光 恵子・西村 淳 (2011). 小学生の予期不安と中学校入学後の学校適応感との関係に関する学校心理学的研究 教育心理学研究, 59, 144-154.
 南 雅則・浅川 潔司・福本 理恵・古河 真紀子・松本剛・古川 雅文 (2016). 中学校生活に対する予期不安と入学後の学校適応感に関する研究 兵庫教育大学教育実践学論集, 17, 103-111.
 和田邦美・小倉正義 (2016). 小中移行期における児童の学校適応感に関する研究—中学校生活への期待感・不安感に注目して— 兵庫教育大学教育実践学論集, 17, 39-50.
 謝辞 本研究の実施とデータ収集にあたり, ご協力下さいました, 小・中学校の皆様, 大学生の皆様, 関係者の皆様に, 心より感謝申し上げます。

Appendix A

中学校生活への不安と期待尺度 (小泉, 1995) の「対人関係・学習での期待」, 「部活動での期待・不安」, 「学習での不安」, 「自由への願望」に属する項目

項目内容
「対人関係・学習での期待」
1 中学校で上級生と知り合いになって, いろいろなことを教えてもらいたい
2 中学校では, 教科によって先生が変わり, たくさんの先生と出会えるのが楽しみだ
3 中学校の先生はおもしろそうなので, なかよくなりたと思う
4 中学校では授業の中で, 新しいことをたくさん習いたい
5 中学校の制服を着て, 学校に行くのが楽しみである
6 部活動 (クラブ活動) のせんばいは, 親切でやさしそうだ
7 中学校で部活動 (クラブ活動) に入ったら, 新しい友だちができて楽しそうだ
8 中学校に入って, 新しい友だちに会えるのを楽しみにしている
9 中学校に入って, 英語を話したり, 英語の本を読みたい
10 中学校では, 2~3ヶ月に一度大きなテストがあるので, がんばろうと思う
「部活動での期待・不安」
11 中学校には, やってみたい部活動 (クラブ活動) があると思う
12 中学校では, 部活動 (クラブ活動) に入っているいろいろな活動してみたい
13 中学校の部活動 (クラブ活動) に入ったら, 練習がきびしくてもがんばれる
14 中学校の部活動 (クラブ活動) のことを考えると, 暗い気持ちになる (R)
15 中学校の部活動 (クラブ活動) に入っても, 練習がきびしそうで不安だ (R)
16 中学校の部活動 (クラブ活動) は, 遅くまで練習があって大変だと思う (R)
「学習での不安」
17 中学校では, 大きなテストが1年間に何回かあるのでいやだ
18 中学生になったら, テストで順位がつくのでいやだ
19 中学校に入ると, 授業のなかがむずかしくなるので, ついていけそうにない
20 中学校の英語の勉強はむずかしそうだ
21 中学生になったら, 自分のテストの順位を, ほかに人とくらべてみたい (R)
「自由への願望」
22 中学生になったら, いろいろな髪型をしてみたい
23 中学校では, 髪型のことをうるさくいわれそうでいやだ
24 中学生になったら, 異性とつきあってみたいと思う
25 中学生になったら, 友だち同士でいろいろなところや遠くに遊びに行こうと思う

Appendix B

中学校生活予期不安尺度（南・浅川・秋光・西村，2011）の「対人的不安」に属する項目

項目内容

-
- 1 部活動の友人と仲良くできるかどうか不安だ
 - 2 親しい友人ができるかどうか心配だ
 - 3 ちがう小学校の出身の生徒と仲良くなれるか不安だ
 - 4 まわりの生徒からいじめられないか心配だ
 - 5 知らない先生なので親しみが持てるかどうか不安になる
 - 6 部活動の練習がきびしそうで不安だ
 - 7 部活動の先生とうまくやっていけるかどうか心配だ
-